

遠征通じ被災地交流

幕別 野球部、福島で清掃活動
江陵高



一緒に阿武隈川沿いでごみ拾いを行った江陵と日大東北の野球部員（日大東北前）
江陵高提供

察などを計画した。

出発翌日、宮城県女川町周辺をバスで回り、陸上競技場跡地にある災害公営住宅近くの献花台に立ち寄って祈りをささげた。

翌日は福島県郡山市の阿武隈川河川敷でごみ拾いを行った。

その際、今回は日大東北の新3年生20人余りも参加し、一緒に大袋約10個分のごみを集めた。

昨年に続く来訪だった山本主将（3年）と阿部航太副主将（同）は「道などほきれいになっていたが、女川にあった野球場跡地に公営住宅が建てられていた。

地震がなければ子供たちはそこで野球ができていたと思ひ、自分たちが野球がで

きる環境にあることを感謝した」と口をそろえた。

同校は昨年、10年ぶりに全国高校野球選手権大会北海道大会に出場を果たした。

西田部長は「生徒は技術、精神面ともに成長した。今シーズンも昨年以上の成績を目指したい」と話していた。
（佐藤いづみ）

五人会 最後

幕別 忠類小

【幕別】町忠類の女性5

人によるボランティアグループ「五人会」（山田きみゑ代表）は、今年も忠類小学校（曽根広至校長、児童95人）の新人学児童に対し、交通安全グッズを寄贈した。活動から20年、メンバーの高齢化を理由に会の解散をすでに決めている。今

【幕別】江陵高校野球部（山本颯太郎主将、部員46人）の2、3年生26人は昨年続き、福島遠征に合わせて東日本大震災の被災地を視察、ボランティアも行った。河川清掃では現地の日大東北高（郡山市）の野球部員と一緒に汗を流した。

今年、今年の福島遠征は3月21～28日の日程で行われ、日大東北高を中心に強豪校との交流試合をこなした。

「東北へ行くのだから、生徒たちの精神的な成長も願って被災地に触れるのが重要」（部長の西田つばさ教諭）と、昨年に続いて視